

(社)日本建築学会
戸建て住宅の振動特性WG 第1回 (通算13回目) 議事録(案)

- A. 日時： 平成26年7月8日(火) 15:00-17:30
B. 場所： 建築会館会議室 202

- C. 出席者：(名簿順)
国松主査 他8名

D. 配付資料：

番号	内容	提出者
13-0	第12回WG議事録(案)	
13-1	構法及び外壁(面材)の固定方法による分類	
13-2-1	(社)日本建築学会 戸建て住宅の三成分振動特性測定・分析・評価WG	
13-2-2	低層鉄骨造建物の加速度応答計測と動特性	
13-2-3	Modal Identification from Ambient Responses using FDD	
13-2-4	弱い地震動を用いた建物の減衰定数の推定	
13-2-5	ポータブル起振器を用いた木造住宅の耐震性評価に関する研究	
13-2-6	inter noise(2013.09.15-18)原稿	

E. 議事内容：

1. 第12回WG議事録(案)の確認(資料13-0)

- ✓ P1 2. 戸建て住宅振動データに関しては、構造工学委員会木質構造の振動障害小委員会主査の秋田県立大学中村先生から依頼があり、H幹事がWGにて紹介した。
中村先生他からデータ提供の申し入れがあったが、データを渡すことはせずに、分析の依頼内容についてWGで検討し、分析が可能ならWGで分析した後に結果を提供する旨を伝えた。
- ✓ P1 2. 事例に関する問い合わせなし、事例追加は継続し、今後も増やしていきたい。
- ✓ P2 4. K委員から提供いただいた幕張での展示場建て替え前後の調査を実施した。
更地、基礎完成後、竣工後の3回実施した。結果は後日報告予定。
- ✓ P3 7. 本WGは、今年度名前を「戸建て住宅の振動特性WG」と変更し継続したが、今年度で環境工学委員会傘下の委員会がすべてリセットされるので、2015年3月までとなる。
- ✓ その他、内容を確認し、了承された。

2. 構法及び外壁(面材)の固定方法による分類(資料13-1)

- ✓ 木質系枠組釘固定とパネル接着は、結果に大きな違いがないため、一つの分類として扱う。
- ✓ 鉄骨系軽量軸組の外壁の固定方法の分類で、ビスとロッキングとあるが、これは壁の固定度が大きい、小さいの違いで示したほうが分かりやすい。そして解説としてどのようなものなのかを説明を加える。
- ✓ 外壁の固定方法で分けるのかは今後も継続検討する。
- ✓ 壁仕上げによる違いは大きい、木質系でサイディングとモルタル塗りでは、モルタル塗りの方が周波数が高くなる傾向にある。

3. (社)日本建築学会 戸建て住宅の三成分振動特性測定・分析・評価WG(資料13-2-1~6)

- ✓ 今年度の活動として、戸建住宅の環境振動レベルによる固有振動数、減衰定数の変化を書籍類、文献類、建築学会大会他から資料を集め、整理し、全員の手持ち資料とし、今後の研究に役立つ資料

作成を目指す。

- ✓ この資料収集に関して、SWGにて実施する。主査をY委員（大和ハウス）とする。
- ✓ ビル等では20年ほど前に構造工学委員会で減衰と固有振動数をまとめたが、振幅レベルでの違いはまとまらなかった。
- ✓ 振幅依存性は難しい、目指しても答えが出てこないかもしれないことも念頭に、文献整理を行う。
- ✓ 振動台実験でまとまったものがあるかもしれない。
- ✓ 資料収集の方法

- ①全委員がキーワード検索し、ヒット件数を確認する。
このときの検索条件（例：減衰定数&固有振動数）も明らかにする。
- ②内外装の仕上がった戸建て住宅を対象とする
→振動台実験では骨組みのみの実験も多いが、環境振動なので内外装の仕上がった状態での現象なので、内外装の仕上がった建物を対象とする。
- ③1996年～2014年を対象期間とする。
→振動台実験が多くなったのは1995年以降であるので、その結果が示され始めた1996年から現在までとする。
- ④締め切り 2014年7月22日までに山下委員へ提出
- ⑤提出物：ヒット件数、その検索条件及び検索した書籍・機関（例：建築学会大会梗概集）

このヒット件数を確認し、全体ボリューム及び雰囲気把握を行い、更なる絞り込みを行う。

4. 次回

データ検索の状況確認として、

9月16日（火） 15時～17時にて開催する。

以上